

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドサポートみやこⅡ		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日	～	2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日	～	2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	従業者が考案した活動だけでなく、子ども達の「やりたい、やってみたい」という主体的な声を受け止め、活動プログラムにも反映させている。また、その様子をできるだけ保護者とも共有し、共に子ども達の成長を支えていく姿勢を大切にしている。	活動の一部で子ども達と計画を立てる時間を設定している。 選択制等も取り入れ、子ども達が自分のやりたいことを選べるよう時間や環境を設定し、自分で選ぶ体験を通じて、自主性や自己決定力の育成にも繋がるよう配慮している。	活動後に「どうだったか」「次は何をしたいか」といった振り返りを導入することで、次回の活動に反映しやすくする取り組みを検討し、双方向の関わりを通じて、より主体的な参加を促していく。
2	毎日昼礼を行い、従業者間で細かな情報共有を行いながら、支援内容の確認・調整を行っている。	子ども1人1人の特性やその日の様子を踏まえた支援が出来るよう、毎日の昼礼で従業者間の情報共有と支援内容の確認・調整を行っている。個別支援と集団活動のバランスを取る為に活動中での役割や配慮事項等も共有し、全員が共通理解のもとで関わられるよう工夫している。	振り返りの場を定期的(週単位、又は月1,2回)に設け支援方針の共通理解をより深めていく。また、個別の特性を踏まえた関りが集団活動でも活かせるよう、活動内容や役割設定の工夫を継続していく。
3	保育士、児童指導員、作業療法士、看護師等、多職種の専門スタッフが在籍しており、それぞれの専門性を活かした多角的な支援が可能。定期的な研修、勉強会等も行っている。	多職種の専門性を活かした連携を行っており、日々の支援の中でも意見交換を行う体制を整えている。又、定期的に外部講師を招いた研修や勉強会を実施し、チーム全体で支援の質の向上に努めている。	継続して行いながら、研修、勉強会の機会を増やし、マニュアル整備やサポート体制の見直しも検討する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士が関わる機会が少なく、交流や情報交換の場がほとんどない。	職員体制や支援にかかる時間的余裕の関係で、保護者交流の場づくりにまで手が回らず、保護者支援の視点が不足していた。	保護者が無理なく交流できるようなイベントや勉強会等を定期的に計画、設定し、安心して参加出来るよう自由参加の雰囲気作り等の工夫も行う。又、従業者側も保護者支援の視点を意識し、交流のきっかけをつくる働きかけをしていく。
2	地域交流がない。	地域との交流までに手が回ってなかったことや、地域の福祉資源や他機関との関係性がまだ十分に築けてないことも交流が進まない一因と考えられる。	地域の福祉施設や学校等とのつながりを少しずつ築き、子どもたち、保護者、従業者が地域と関われる機会をつくる。 地域資源に関する情報収集や、他機関とのネットワークづくりにも取り組んでいくことが課題となる。
3	部屋が狭い。	利用児、従業者に対して十分なスペースの確保が難しい。集団活動や個別支援を同時に行う際のレイアウト調整が困難になりやすいことも要因の一つ。	限られたスペースの中でも、活動ごとにエリアを区切る工夫や家具の配置の見直しを行い、より安全で落ち着いた環境づくりに努めていく。